

グリーンスクール表彰校について（10校）

（1）播磨町立蓮池（はずいけ）小学校

「身近な環境を知ることにより自然の大切さを学ぼう」



中庭にあるホタル池にホタルを飛ばす取り組みを出発点に、学校の敷地内を環境教育のフィールドとして、カワニナの飼育や調査活動などの体験活動を積極的に行っている。また、アサガオやトマトなど植物の栽培・観察を行い、身近な里山で四季の移り変わりを観察するなど、発達段階に応じた環境学習に取り組んでいる。

これらの活動を通して、子どもたちは命の力の持つすばらしさを実感するとともに、自然界のバランスを保つことがいかに大切で大変かを学び、自然の恵みに感謝する心を育てている。

（2）三木市立豊地（とよち）小学校

「自然とふれあい、命の大切さや命のつながりを体感しよう」

校区内にある「増田ふるさと公園」を主な活動場所として、三木自然愛好研究会の方々をゲストティーチャー（講師）として招き、公園の草木やそこに生息する生き物について学び、森や池のある環境の大切さを体感している。また、実際に生物を観察するだけでなく、採集し学校に持ち帰って、教室の水槽等で飼育することにも取り組んでいる。



これらの活動から今ある自然のすばらしさだけでなく、外来生物の影響について学び、その駆除や絶滅危惧種の保護等、環境保全など様々なテーマについて学習の幅を広げている。また、学習した内容を地域の行事や校内の学習発表会で発表し、地域において環境を守る啓発活動に繋げている。

（3）豊岡市立資母（しば）小学校

「地域の豊かな自然を活用した環境教育の推進」

地元農家等の協力を得て取り組んでいる米づくりや、地元が県生産量No.1を誇るピーマンの栽培体験など、自然に触れて自然に学ぶ農業への取り組みは、着実に成果をあげてきた。一人一鉢ずつ育てたピーマンが学校給食の食材として用いられる等



の体験を通して、ピーマン大好きな子どもたちを育てている。

さらに昨年度は、東日本大震災の被災地に何かできないかと考え、岩手県の小学校に学校田で栽培したお米を、資源ゴミの回収で得た収益の一部を送り届けるなど、発展的に復興支援にも取り組んでいる。

んでいる。

これらの活動を通して、地域の自然環境が、豊かな食を生み出すことにつながり、被災した人々を励ます力になることに気付くとともに、自然豊かな郷土を誇りに思い、大切にしていこうとする心情を育てている。

(4) 篠山市立畑（はた）小学校

「みたけの里環境保護活動～畑川水質調査とクリンソウ栽培～」

二十数年前から学校近くの畑川を観測地点と定めて、豊かな水を守るために水質調査を行っている。毎年、箱めがねを利用し、水中の生物を調べ、川底の石を集め、その調査結果を「みたけ環境保全委員会」に報告している。また、クリンソウの自生地の現地視察もかね、みたけ山アルペンルート登山に年2回参加し、地域の協力を得てクリンソウの栽培活動に取り組んでいる。



豊かな自然に恵まれたふるさとみたけの自然環境に関心をもちながら環境保全活動に取り組み、ふるさとの自然を守るとともに環境活動に積極的に参加する児童を育てている。

(5) 篠山市立西紀北（にしききた）小学校

「ふるさとを愛し、たくましく生きる「北っ子」の育成」



地域の自然環境を活かし、児童が主体的・総合的に「ふるさと草山」と関わりが持てるよう、学年に応じて、特産物の黒豆の栽培や草山の調査、地元の水稻栽培の学習などの地域学習を計画的に取り組んでいる。また、地域との連携については、篠山市環境課とともに特産物の山の芋栽培でグリーンカ

ーテンを作る、川の調査を高等学校の先生を招いて学ぶなどしている。さらに、学んだことは学習発表会で発表、「草山ふるさと新聞」を児童が発行する等、地域に発信している。

このようなふるさとの自然や文化について自主的に調べ発表する活動を通して、自然や人や文化を大切にす豊かな心をもった子に育てる活動に取り組んでいる。

(6) 姫路市立琴陵(きんりょう)中学校

「緑あふれる美しい学校をめざして」

生徒会活動の一環として、毎月全校生徒がアルミ缶を持ち寄る回収活動を約20年間続けている。その収益は校内の花壇の苗や教室に飾る鉢の苗などの購入費用に充てている。アルミ缶を回収することが校内緑化につながり、全校生徒に物を大切に、落ち着いた学校生活を行う心を育てている。



また、学校にソーラーパネルを設置したことを契機に、教室、廊下やトイレなどの照明は必要最小限に電灯のスイッチをこまめに切るなどの行動に表れ、全校生の節電意識が高揚している。

(7) 南あわじ市立沼島(ぬしま)中学校

「自分たちで守ろう！ふるさと沼島の自然」



総合的な学習、生徒会活動、ボランティア活動を通して、沼島の自然を知り、保全して未来へ伝えていこうとしている。調べ学習だけでなく、地域の人への聞き取り調査やフィールドワークを通じて、豊かな沼島の自然環境を「調べる」「知る」「共に生きる」という共通のテーマで活動している。学校の菜園で野菜づくりに挑戦し、海水の水質調査、外来種ナルトサワギクの分布調査と駆除などを実施している。

様々な角度から沼島の自然環境を調べることによって、自然とどう向き合っていけばよいかを生徒自身が考えることにより、ふるさとを愛し、誇りに思う生徒の育成にもつなげている。

(8) 兵庫県立西宮南(にしのみやみなみ)高等学校

「生物多様性に基づいた体験学習による自然保護意識の向上」

「環境」(総合的な学習の時間)において、特色類型クラスの生徒が(1年1組)週に1時間、甲子園浜干潟に生息する生物や冬鳥の観察等の実習を中心に生物多様性を学び、環境保全の大切さを学んでいる。また、「生活と環境」(総合的な学習の時間)において、3年生で選択した生徒が週



2時間、半期ごとに農作業を実施して、自然のぬくもりや植物の生命力、育てた食物を食べることから地産地消の大切さを学んでいる。さらに「緑化運動」を環境委員が中心に琉球アサガオを育て、グリーンカーテンによる教室の温度低下について調べている。こうした活動を通して、西宮市の環境のすばらしさやこの環境を保全していく大切さを学んでいる。

(9) 兵庫県立氷上西(ひかみにし)高等学校

「国蝶オオムラサキの舞う里山づくりと明日の丹波を担う生徒の育成」



「丹波に根ざし、明日の丹波を担う生徒の育成」をスローガンに掲げ、地域連携・学校連携を推進する中で、郷土の歴史と環境の変化を学びながら活動に取り組んでいる。平成20年度から佐治川の「クリーンアップ大作戦」を近隣中学校と連携して清掃活動している。毎週、月曜日には「清掃ボラン

ティア」として学校の周囲を美化・清掃活動し、本年度より「ちいき清掃ボランティア」として学年単位で近隣の事業所、公共施設に出向き清掃ボランティアを実施している。

平成23年度には、丹波の森公苑と連携し、国蝶オオムラサキを環境教育のシンボルとしてとらえ、丹波市でオオムラサキが確認できる環境づくりを行うことで地域の活性化を図る取り組みを行っている。「国蝶オオムラサキの舞う里山づくり」の一環としてオオムラサキの飼育から放蝶を通して環境教育と命の大切さを学び、地域と結びつけた行事や取組によりその充実を図っている。

(10) 兵庫県立三木北(みききた)高等学校

「地域とつながり、生徒の発案を活かして学校全体で取り組む環境教育」

「人と環境の三木北」をキャッチフレーズに、「自然環境」「国際環境」「社会・家庭環境」という3つの柱を立て教育活動を実施した。「自然環境」では、ササユリ・カタクリ等の保護繁殖活動や地場農産物普及活動、

「国際環境」では、台湾高級中学校との交流、「社会・家庭環境」では、地域自治体と連携してグリーンカーテンの普及を目的に苗を準備し地域に配布したり、「加古川かわあそびフェスタ」に参加・協力し、親子の自然環境との触れ合い体験をサポートしたりしている。このように地域と連携して



地域づくりの取組や環境保護・保全に係るボランティア活動等への積極的な参加を推進している。本年6月には、これらの取組がユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の提唱する持続発展教育の理念に合致すると認められ、兵庫県の県立高校としてはじめてユネスコスクールとしての認証を受けた。

グリーンスクール奨励賞表彰校について(3校)

グリーンスクール表彰に届かなかったものの、優秀な取組を進めており、今後の取り組みが期待できる学校をグリーンスクール奨励賞として表彰しています。

(1) 神戸市立丸山(まるやま)小学校

「自然にふれ、自然のよさを味わい、自然を守ろう」



平成17年に「美しいわが町点検事業『獅子ヶ池を美しくしよう』」を実施し、地域と連携して獅子ヶ池や苅藻川を美しくする活動を始め、平成20年からは、六甲砂防事務所の協力を得て、ドングリを育てて植樹するというドングリ育成プログラムをスタートした。また、平成21年には自然学校での植

樹活動を始め、3年生から6年生までの一貫した環境教育プログラムを確立した。

こうした取組を通して、学校全体で環境教育に取り組む体制ができ、児童に自分たちの地域の自然を大切に守ろうとする意識を育てている。

(2) 洲本市立都志(つし)小学校

「環境問題を通してふるさと都志を愛する心を育てよう

菜の花エコプロジェクトの取組を通して 」

環境美化活動として、地域の都志の浜の清掃活動を行い、学校では環境委員会が中心となって花の栽培を行っている。また、全校児童が「菜の花エコプロジェクト」に参加してその仕組みを学習し、菜の花の種まきをし、栽培した菜の花の種からできた菜種油を給食用に使い、油かすは肥料に用いる等を行うことにより資源の再利用を体感している。



こうした活動を通して、児童が地域の素晴らしい海山の自然の大切さを知り、環境問題に関心を持つことで、自然環境を保全しようとする意識が児童に芽生えている。また、ふるさとや地域に誇りをもつことにもつながり、ふるさとを愛する心が育っている。

(3) 淡路市立浦(うら)小学校

「命のつながりを知ろう 自校の田んぼを生かした特色ある学校づくり」



学校敷地内に実習田畑があり、米・野菜作りを行っている。児童は米作りの全てを体験することで、農業の楽しさ厳しさを実感する。また、ため池や浦川の水質調査・浦海岸の清掃に取り組むことで、山・池・川・田畑・海という水でつながる環境を体感させ、環境に対する意識の向上を図っ

ている。

こうした活動を通して、米や物を大切に作る心が育つとともに、命と環境のつながりについての学習が深まってきている。